

平成31年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながのシニアおしごと「ご縁」結び(シニア就労セミナー)
事業主体 (連絡先)	長野市 (保健福祉部高齢者活躍支援課高齢者支援担当 TEL 026 (224) 5029)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大(オ その他)
事業タイプ	(2)保健、医療、福祉の充実
総事業費	690,398円(うち支援金:552,000円)

事業内容

60歳以上の市民を対象に、フレイル予防の柱の一つである社会参加を促すために就労支援セミナーを実施し、職業適性検査と就職説明会等を同時開催した。シニアの就労希望と企業側の採用希望のマッチングを行い、就労に結び付けた。

また、同時開催されたフレイル予防キックオフイベントと連携し、フレイル予防の普及活動を実施した。

開催日 令和元年7月14日(日)

場所 長野市若里市民文化ホール

内容及び参加者

- ・就職セミナー参加者 72名
- ・職業適性検査(からだ測定)66人
- ・就労相談及び求人情報 62名

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

シニア就労セミナーにおいて、職業適性検査と就職説明会のマッチングを行い、高齢者を就労に結び付け社会参加の継続につなげることができた。アンケートの結果では、目標の就労率30%を達成することができた。

令和元年9月24日実施 就労状況アンケート(参加者72名中51名より回答。回答率70.8%)

職業適性検査参加者の2か月後の就労率 31.4%

〃 就労達成率 11.8%

(※就労率:セミナー後に就労をしている者の割合)

(※就労達成率:セミナーを契機に就労した者の割合)

就職セミナー参加者72名に対して就労が健康づく・フレイル予防につながることの意識啓発ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

同様のイベントの開催回数を増やすとともに、参加者数を拡大し、高齢者の就労率向上につなげる。

これにより社会参加をしてフレイル予防につながる活動をしている高齢者の割合を増やす。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【写真】



【目標・ねらい】

- ① シニアと企業のマッチングによるシニアの就労率向上
- ② 就労⇒運動・社会参加⇒健康・フレイル予防につながることに ついての周知啓発

※自己評価 【A】

【理由】

参加者の2か月後の就労率は3割を超えており、所期の目標を達成できた。

また、参加者に対し就労が健康づく・フレイル予防につながることの意識啓発ができた。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野県北信エリアへの移住・就職・創業の促進ハンドブック「信州の参考書(北信版)」制作・出版事業
事業主体 (連絡先)	NPO法人コミュニティビジネスネットワーク長野 長野県長野市栗田1020-6 ステラビルBY
事業区分	(6)オ 雇用拡大に資する事業 (6)エ 商業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,485,000円(うち支援金:1,188,000円)



事業内容

特に若者の地方からの人口流出が顕著になっている中で地域の特性や長野県の良さを知っていただくことを目的に、「創業」「就職」「移住」の各分野における長野県の現状や考え方をまとめたハンドブックを制作した。主に県内にて支援を実施している中間支援団体(大学・短期大学・専門学校・金融機関・行政機関等)に協力をいただき、興味を持った対象者に配布するとともにセミナーや講座等での活用をしていただいた。



【設置の様子】

事業効果

- ① 対象者が集まる場への配布をすることで、より現実的な配布・活用が実行できた。
- ② このハンドブック制作にあたり、中間支援団体とのつながりが強化でき、今後より幅広いニーズに対応した展開の広がりを感じている。
- ③ 今まで活用ニーズはあったとしても、特に資金面のハードルが高かったが、支援金を活用することで具現化されたことで大都市圏の平均的な考え方ではなく、長野ならではの特色が魅力に変わる可能性を感じた。

【目標・ねらい】

- ① 若者の地元定着の啓発
- ② 長野県への移住促進
- ③ 移住・定着後の支援
- ④ 関係団体との連携強化

今後の取り組み

最終的にはテーマ別に独立した内容のハンドブック制作に取り組んでいきたいと考えている。制作にあたっては、今回私どもの法人が主体となって制作したが、同じように地域支援を行っている団体や実際に創業・就職・移住をされた方々を巻き込みながら、より「長野ならではの」を実感できるような活きたガイドブック制作に取り組んでいきたいと思う。それにより少しでも若者が長野県を選んで長野県を拠点における環境づくりに寄与できればと考える。支援機関同士のネットワーク構築による「ONE NAGANO」を目指したい。

※自己評価【B】

【理由】

若者への直接訴求は図れた。構想段階より同じような支援を行う団体等の意見をより多く取り入れる仕組みを形成することでさらに効果が期待できる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成31年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州産ソルガムの普及促進事業
事業主体 (連絡先)	信州産ソルガム普及促進協会 長野県長野市篠ノ井小松原131 (株清水製粉工場内)
事業区分	(3) 県内高等教育機関の知の活用
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,564,681円 (うち支援金: 4,994,000円)

事業内容

信州大学工学部、長野県立大学、地域住民協力の元、グルテンフリー、アレルギーフリー食材として注目される信州産ソルガムの普及拡大に取り組む。耕作放棄地対策のみならず小麦アレルギーや健康志向の方々に新たな選択肢を提供するとともに地域の活性化に貢献していく事業を展開。

- ・信州産ソルガムの普及PR事業を実施
(栽培講習会、展示会出展、レシピブック作成等)
- ・受入～出荷に関する設備(ハード事業)の整備



【ワークショップの様子】
(七二会小学校)

事業効果

- ① 2019年度実績として長野県内におけるソルガムの生産者数約50名弱、総収穫量約10トン弱となり、新規の生産者が約半数程度を占めとなった。
- ② 流通設備の導入により様々な製品に画することが出来るようになり、約10事業者にて信州産ソルガムを材料とした製品開発に取り組みを開始している。
- ③ ロゴ、レシピブックの作成し展示会等に出展することにより知名度向上を図った。レシピブックの作成にあたっては、信州大学教育学部高崎研究室、長野県立大学健康発達学部食研工学科等の県内高等教育機関の協力も得て作成した。展示会では多数の来場者があり、「最近話題のスーパーフードのソルガムがある」といった声も多数聞くようになった。各事業者の製品もネットショップや店舗での販売に向けて取り組みを開始。

【目標・ねらい】

- ①生産者の増加(耕作放棄地対策)
- ②流通設備の整備
- ③信州産ソルガムの知名度の向上

※自己評価【B】

【理由】

- ・全体と通じて概ね予定していた効果を得られた為。
- ・3月に予定していたイベント(展示会含め)がコロナの影響により中止となった為。
- ・具体的に数値に現れるのは次年度以降に反映される為。

今後の取り組み

今回の補助金事業を通じて、認知度の向上を図り流通体制の基盤を構築したことにより、今後信州産ソルガムの更なる普及拡大につなげる足掛かりを構築することが出来たと考えている。具体的な効果としては次年度以降の生産者の増加や製品開発に取り組む事業者の増加に反映される事を期待する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果を得られた 「B」: 予定していた効果を得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北信エリア 地元産酒類のツーリズム資源化推進事業
事業主体 (連絡先)	北信エリア 地元産酒類のツーリズム資源化推進実行委員会 (事務局) 長野市南千歳 1-12-7 新正和ビル1階
事業区分	産業振興・雇用拡大に関する事業ー (オ) その他地域の特色、個性を活かした産業振興・雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,085,235 円 (うち支援金: 4,000,000 円)

事業内容

(主な事業)

- ① 北しなのエリア全域に点在する酒蔵が一致協力し、来訪者対応をすることで、酒蔵だけでなく各地域への人の流れを作り地域の活性化に寄与する取り組みを目指して行ってきた。家族経営など蔵案内をする人手がない酒蔵も多いことから特定の日を決めてオープンデイと称したイベントを開催。(10/18(金)~20(日)3日間 北しなのエリア全域の酒蔵にて開催)
- ② その期間以外も地域に来訪者が来れるようにMAPを制作。(8000部各所に配布)
- ③ 地元住民が地元にある地域資源とその価値に気づいてもらうこと、また気づくことで来訪者を歓迎する土壌を形成することを目的にセミナーの開催。(10/17(木)ホテルメトロポリタン) 地域の観光事業者や商工事業者向けに
- ④ 地元、県内、県外の方々にこの地域の酒蔵の魅力を発信する目的で各種プロモーションを実施した。
(5月~10月チラシ配布や各種メディアによる発信)

写真や広報活動、別紙参照

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

台風直後にもかかわらず想定以上の実績であった。

- ① オープンデイ来訪者 2018年 50名
⇒2019年目標 200名に対し、実績 300名
- ② 地元住民向けセミナー40名参加
会場がほぼ満席で、あらためて地元の”酒“の魅力を理解いただくことができた。
- ③ 首都圏など約 42%の方が県外からの来訪者
- ④ イベントに関連しての宿泊、飲食者 (推計)
宿泊者数 100名×宿泊代 9000円=900,000円 (1泊)
飲食業 100名×飲食代 3000円=300,000円 (1回)

【目標・ねらい】

- ① 酒蔵を基点とした交流人口増加
- ② 地元住民へ地酒の理解向上
- ③ 北信濃の地酒、認知度向上
- ④ エリア内の経済貢献

※自己評価【A】

【理由】

まだまだ課題はありやるべきことは多いが、想定以上の 300名の来訪実績となり、一定のエリア内経済貢献にも寄与できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・地域住民が「酒蔵」の価値に気づき地域に対する愛着を持ち、来訪者に対し歓迎する機運醸成
を行う。・MAPの掲載内容を工夫し、酒蔵だけでなく地域の周遊性を高めエリア内消費につなげる。・県内、国内での認知を高め、来訪者対応の経験を積み、将来的にインバウンド対応も目

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)



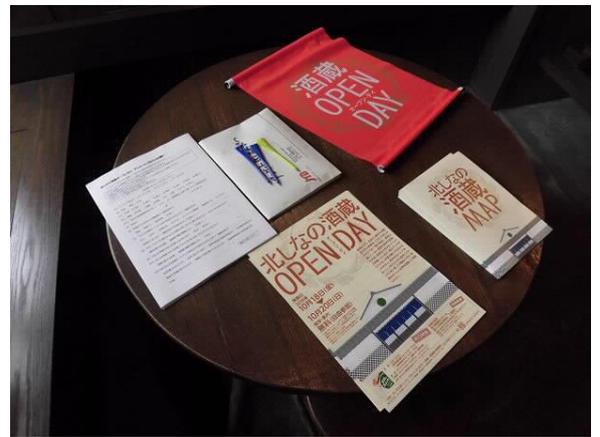
遠藤酒造



西飯田酒造



松葉屋



柘一市村酒造店



松葉屋



高橋助作酒造店



東飯田酒造



平成31年度(令和元年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	あんずなどの年間通じた安定的・高品質加工で村おこしに地域貢献する
事業主体 (連絡先)	工房アプリコ (026-214-5058)
事業区分	6 産業振興、雇用拡大に関する事業 オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,372,288 円 (うち支援金: 1,077,000 円)

事業内容

- 検査機器・加工機器の導入などで、業務の見える化と高品質化・高効率化の実現
 - 糖酸度計の導入でベストの糖酸バランスの商品仕入で高品質な商品を開発する。
 - スライサー・包装機・業務用ミキサー等の導入で業務の高品質化・高効率化を実現する。
- 若い世代とのコラボ活動で新商品のデザイン開発をする。
 - 若者にも注目される商品の開発。
 - 新しい売り先を開発し販売促進につなげる。
- その他の工夫
 - 近隣の冷凍施設の使用による素材の有効活用



【屋代南高校とのコラボ】

【目標・ねらい】

- 商品の品質向上。
- 作業の効率化の実現
- 新商品で、販路開拓
- コラボなどで地域貢献

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 検査機器・加工機器の導入などで、業務の見える化と高品質化・高効率化が実現
 - 糖酸度計は、りんごの仕入・加工から活用。
 - 加工機器などの導入で、給食センターの業務の受託などが可能となった。
- 若い世代とのコラボ活動で新商品のデザイン開発が実現した。
 - 新商品開発で姨捨SE等の販路開拓が進んだ。
 - 大1玉杏シロップ漬けは、好評である。
 - 「干熟」のネーミングも好評である。

※自己評価【 B 】

【理由】
変更はあったが、計画通りに実施出来た。高校生とのコラボで良い商品が出来た。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 導入した、各種加工機器でさらなる、高品質化・高効率化の実現をする。
- 糖酸度計の活用であんずジャムで、当工房主力品種・平和丸の糖・酸バランスを科学的に検証することで、差別化商品として、客観的評価を確立していく。
- 開発ずみの新商品を、さらなる販路を開拓していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

